

オレの話を聞け!

太田哲也の

連載 第4回

エコドライブは“エゴ”ドライブ?

モータージャーナリスト、レーシングドライバー、そしてチューナーと多方面で活躍する太田哲也が、世の中に自らのオピニオンを直球で発信し世相を斬る「俺の話を聞け!」。第4回は、エコドライブについて。度を越した“エコ”は周りに迷惑な“エゴ”になりがちであること、また、効果的なエコドライブの方法を自らの経験を通じて太田哲也が語る。

TEXT・太田哲也(Tetsuya Ota)
PHOTO・市 健治(Kenji Ichi)

Q 先日はゲンロク・エコ・キャノンボールにおいて、様々なクルマでエコツーリングを行いましたが、その際にスタッフから疑問が上がりました。オートクルーズは使った方がいいのか、使わないで人間が操作した方がいいか、どちらの方が燃費が良いかということがありました。それはもう機械任せより人間がやった方が絶対に良いよ。

A たとえば登り坂に差し掛かったしたら、オートクルーズは傾斜がつきくなつて速度が落ちてからスロットルを開ける。その瞬間に強く踏むことになって燃料がゴンと増量される。でも人間だったら、登り坂に差し掛けた少し前からアクセルを踏んでスピードを落とさないようにできる。できるだけ一定速度で走った方が燃費を稼げる。

下り坂でもオートクルーズはスピードが上がってからアクセルを緩め

るけど、人間だったらスピードが上がってしまう前に緩めてアクセルオフの距離と時間を延ばせる。今のクルマはだいたいアクセルオフでボルトがかかるから、燃費効果がぐっと上がるよね。

A つまり人は予測ができるから有利ということですね?

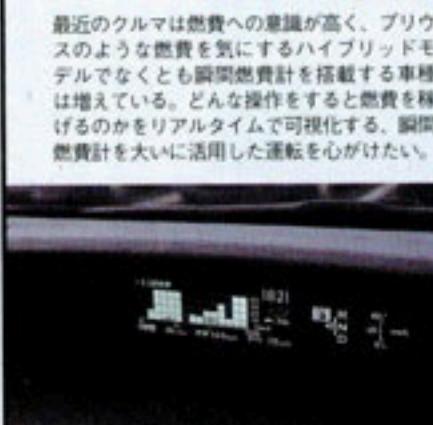
Q その通り! 最近は瞬間燃費が表示されるクルマも増えてきました。どのくらい踏んだらどれだけ

A ええと、普段はハリウッドスターがあ



エコドライブには瞬間燃費計を活用

最近のクルマは燃費への意識が高く、プリウスのような燃費を気にするハイブリッドモデルでなくとも瞬間燃費計を搭載する車種は増えている。どんな操作をすると燃費を稼げるのかをリアルタイムで可視化する、瞬間燃費計を大いに活用した運転を心がけたい。



えてプリウスに乗るなど「CO₂削減」「自然環境を考えた人」のイメージがあったけど、最近はバッテリーの生産からリサイクルまでの過程におけるCO₂排出の総量は変わらないんじゃないかという反論もある。いんじやないかな。

A まあ記録を出したい気持ちはわからぬでもないけど、あくまでも公道だからさ。オレも燃費運転をするけど、記録はしない。記録すると気にしすぎるようになりそつでね。

みんな勘違いしていると思う

んだ。アクセルをそーっと踏

つているんだろうけど、必ずしもそ



クルコンは燃費運転に有効か?

クルマの運転は「予測」という行為が重要。クルマ(機械)は事態に直面してからでないと対処できないが、人間は状況を予測して応じることが可能だ。予測を心がけていると運転もまたくなる。燃費運転でも、現時点ではやはり人間に利があるだろう。

A **Q** クルコンは燃費運転に有効か? それはもう機械任せより人間がやった方が絶対に良いよ。

Q 燃料が消費され、どうすると節約できるかのヒントになる。運転者の学習機能向上にとても有効だ。

A 確かにのろのろ走っているかと思つたら、交差点に赤信号で突入してきたり、そんなブリウスの様子をよく見聞きするね。

Q 近頃は全国の燃費運転ランキング参加者と競争するサイトもあって、個人的に燃費の数値を記録していくわけだ。機械任せのオートクルーズは楽チンで空いた道や長距離では便利だけど、運転者の予測能力が磨かれない。それにオレは眠くなるからあまり使わないなあ。

A まあ記録を出したい気持ちはわからぬでもないけど、あくまでも公道だからさ。オレも燃費運転をするけど、記録はしない。記録すると気にしすぎるようになりそつでね。

みんな勘違いしていると思う

んだ。アクセルをそーっと踏

つているんだろうけど、必ずしもそ

アクセルを強く踏もうがそーっと踏もうが、加速中はどちらにしても燃料噴射量が大きく増える。どちらにしても燃費が悪いわけで、その区間を短くした方が燃費が良くなるという考え方もあるわけだ。

例えば制限速度50km/hで走るつもりなら、そこまでは全開とは言わなくてはある程度アクセルを踏んでスイッチと50km/hまで上げて早めに定速走行に入った方が、燃費が良くなることが少なくない。

オレがこの運転方法を使い出したのは15年ほど前、マツダ767BというグループCカーを運転していた

時の出来事がきっかけだ。グループCは燃料消費量が制限されていて、速く走らなきやいけないけど燃費運転も大事だった。

当時メーカー技術者は燃料をコンピューターで絞っていたけど、それよりもドライバーが燃費運転をした方が効率がいいのでは?ということになつた。加速時はフル加速でタイムを稼ぎ、減速時はすぐにフルブレーキせずシフトダウンもせず、高めのギヤで早めにアクセルを戻して、燃料カット時間を長くとる作戦だ。

一昨年、ホンダCR-Zでジャーナリスト対抗模擬レースがあつたんだけど、その時メーカー技術者は「エコモードで走った方がよい、アクセル開度はせいぜい1/3程度で」というアドバイスをくれたけど、オレはそれは無視して、のろのろ走っている競争相手をどんどんオーバーラップして走った。個人結果を見たら、もちろんタイムは一番だつたけど、そんな走りでも燃費が上位3位くらいだつたよ。何が言いたいかというと……自慢なんだけどね(笑)。

A Q 発進もそうですか?

オレの場合はタイヤが最初にころつと1、2回転するくらいはわりと弱め。燃費も稼ぐし、トランスマッシュョンやタイヤも労われる。そこでから先はスムーズに踏み込んで、もちろんレブリミットまでは回さないけどトルクの盛り上がり付近まで回して早目にシフトアップ、この時点でたいてい流れをりードしている。速度が乗っているから、時にはギヤを飛ばしてトップギヤ

に入れて一定速度走行に入る。割とメリハリは良いけど、燃費も良いよ。一定速度走行は加速時よりも燃費が良いからね。

A Q そもそも太田さんはどんな運転をしているんですか?

レーサーって飛ばすイメージがあるだろうね。でも安全運転。たいていびっくりされるよ。そりやあの気になれは200km/hだって300km/hだって平気だけど、免許が大事だし、事故を起こして新聞でも載つたら格好悪いもんね。

とくに今は事故を絶対に起こさないようだと考えている。でも都内だと、赤信号無視や逆走などめちゃく

ちゃな自転車もいて、でもそうであつても絶対に巻き込まない、巻き込まないと考へている。するとそんなにスピードは出せないね。

ゆっくり走っているけどそんな中で楽しみを見つけているよ。

ひとつめの楽しみは、やっぱり燃費運転かな。東京の自宅から会社がある横浜まで行くのにルート246を通るのだけど、常に瞬間燃費計をチェックし、いかに燃費をよくするかを考えている。今年から(アルフアロメオ)ジュリエッタに乗っているんだけど、毎日が発見だ。ギヤを

入れて減速すれば燃料がぐつと節約できるけど、ニュートラルでの惰性走行は意外と燃料を食うんだなとかわかる。

この速度で行くと二個目の信号に必ず引つかかるから、速度を上げずにつか、後続車が来なければ早めにアクセルを緩めてしまうとか、それはそれでレースでタイムを詰めると似た楽しさを感じるよ。もちろん周りに迷惑をかけないように配慮はしている。

もうひとつは「間違い探し」ならぬ「危険探しクイズ」かな。あのバイクは車線をはみ出していくかもとか、前走車はウインカー出してないけどたぶん停車する気だろうとか、あの自転車はこちらに気づいていないかもとか、危険箇所を探しながら走っている。

そして自分が早めに、かつスマーズに対応できると、頭の中で「ピンボーン」が鳴る。たいていピンボーンだけど、たまにスマーズさがないと「ほにやほにやぶー」だ。眠くならないね。

A Q 太田さんの周りにも燃費運転をしている人はいますか?

いるいる、編集者でもいるよ。もう彼の場合は勝負を賭けてるね。寒くともヒーターを入れない。暑くてもエアコンをつけない。空気抵抗を考慮して開けない。近道を通れば早いのに、わざわざ幹線道路を通つて大回りする。

まあそういう楽しみ方も、周りに迷惑さえかけなければいいかな。一緒に乗りたくないけどね。

オレも昔、グループCとかめちゃくちゃ熱くて、それこそコクピットが60~70°Cくらいになつて、しかもステアリングも重くて、体力的に工つく厳しかつた。だから普段から身体を慣らすために、乗用車でもなる

べくエアコンを使わないようにしていった。人が同乗するときでもせいぜい27°Cくらいの高めに温度を設定していたよ。一緒に乗つてた人は大変だつたろうな。

今のオレは、燃費のためににはそこまでしないね。節約できても大事なものを見つたら元も子もないし。資源は大切にしなければならないし、燃費運転を楽しむのはいいけど、約し過ぎで気持ちがせこくなつたら良くないね。やっぱりバランスが大事だよね。



近況報告

6/15 Tetsuya OTA 出光 ENJOY&SAFETY DRIVING LESSON with Volkswagen 開催(袖ヶ浦)

テーマは、「正しい運転を、楽しく学ぶ!!」。袖ヶ浦フォレストレースウェイを会場に、「エンジョイ・ドライビングレッスン」、「セイフティ・サーキットレッスン」、「スポーツ走行会」の3つのクラスを設定。当日は何とフォルクスワーゲンの最新モデル「ゴルフアド」も登場! テストドライブやサーキットタクシー、トークショーなどイベントも盛りだくさん。問い合わせ・申込みは、太田哲也スポーツドライビングスクール事務局まで。<http://www.sportsdriving.jp> ☎045-948-5540